

流山市立西初石中学校 SDGsの取り組みと地域連携について

昨年度、西初石中学校では地域貢献活動に取り組むために、生徒による「貢献隊」を結成し、「より良い地域を作ること」や「暮らしやすくする取組」を目指して様々な活動をしてきました。具体的には、高齢者施設訪問や節水節電、赤い羽根募金や地域清掃、流山おおたかの森高校と合同での「ユニクロ服のチカラプロジェクト」等です。この取り組みが「西初石中学校の『SDGs』」に発展しました。



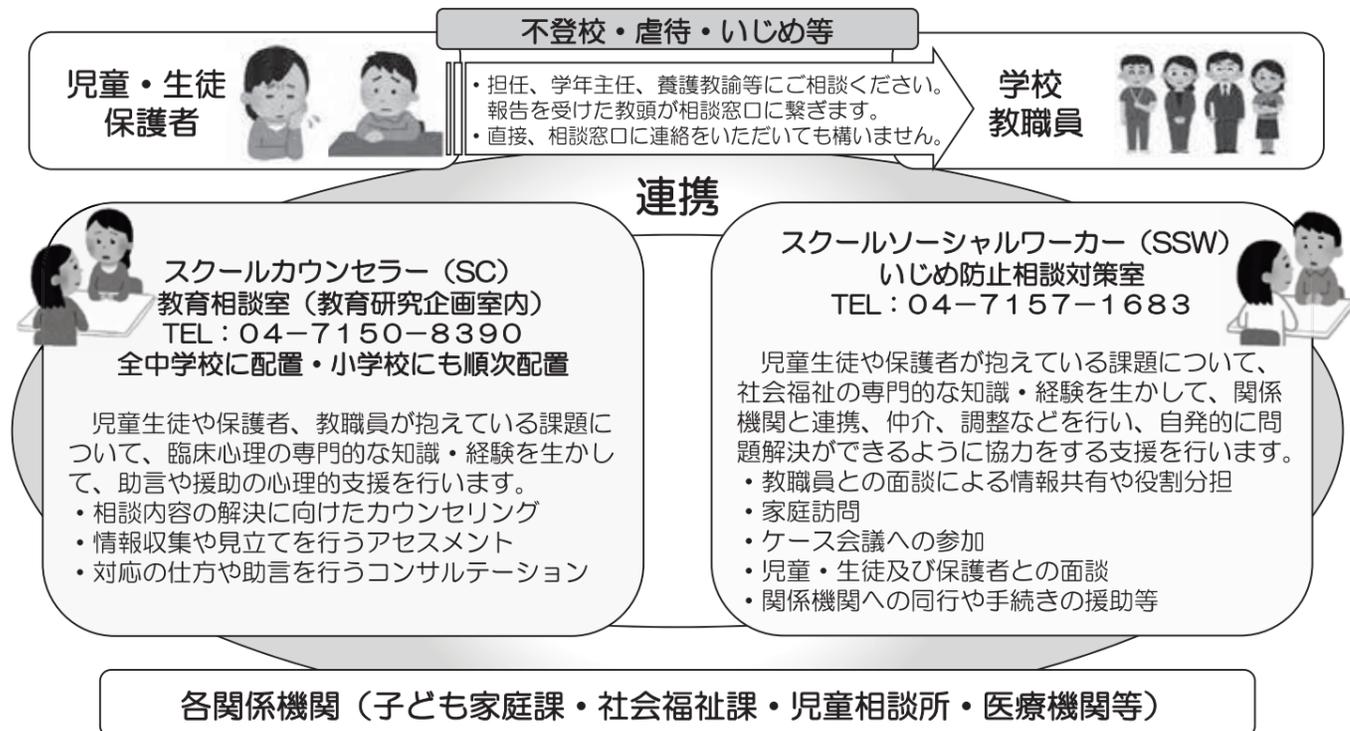
また、西初石学区は小中高校が隣接し、日頃から様々な交流が行われています。児童生徒が、地域の方々とともに活動をしたり、地域貢献活動に取り組んだりしています。小学校では、多くの地域の方が授業で児童と接して下さっています。おおたかの森高校の高校生も外国語活動「高校生が先生」で小学校と交流し、週1回の「学習会講師」として中学校と交流し、「清掃活動」で地域と交流を図っています。

地域学校協働本部の活動も活発で、多くの地域ボランティアが教育活動に携わって頂いています。今後も地域全体で交流活動を盛んに行っていくそうです。

11月17日（火）に西初石中学校で行われたミニ集会では、互いの理解や交流を深め、学校も地域の一員として、すべての人が暮らしやすい西初石地区をつくり、将来コミュニティーをつくっていく人材を育てることを改めて確認しました。また、西初石中学校はこの場で「西初石中学校の『SDGs』」について発表しました。みんなでつながることを大切にするために、まず「あいさつから始めること」を共有し、地域スローガン「協力・安心・感謝～あいさつは心をつなぐはじめの一步 Ever Growing Town 西初石～」を決めました。

困った時は、相談しましょう

スクールカウンセラー（SC）とスクールソーシャルワーカー（SSW）による支援



教育な が れ や ま

第79号
編集発行 流山市教育委員会
TEL 04 (7158) 1111

現状を知ることから



流山市教育委員会教育長
田中 弘美

2学期が終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、子どもたちはたくましく学校生活を送ってきました。新しい学校生活様式を受け入れながら、先生たちとともに学校・学年行事に工夫を加え、柔軟な発想で新しいものをつくり、学習面でもこれまでと同じように一生懸命に取り組む姿を各学校で見ることができました。年度当初は学習面の遅れを心配しましたが、子どもたちと先生方の頑張り、そして、ご家庭でのご協力により遅れを取り戻してきました。

さて、そんな中、コロナ禍での子どもたちの生活で懸念されることの一つとして、「大人が見えにくい子どもたちのネット社会とのつながり」が挙げられます。

新聞でもそれに関する記事を目にすることが増えてきました。総務省の調査（2019年実施）によると、6歳から12歳の子どもたちの80.2%がインターネットを、35.0%がスマートフォンを利用しており、また、13歳から19歳の60%が「オンラインゲームを利用」しているという調査結果が出ています。コロナ禍では、ますますその時間も増えていることが予測されます。

オンラインゲームは、その設定によって面識のない人と遊ぶことやイヤホンマイクで会話をすることができるなど、ゲームを通じて面識がなかった人とも仲間意識を持つことができるようになります。また、学校が休みの時でもゲーム仲間とつながる場所を提供してくれます。オンラインゲームは子どもたちの居場所づくりにもなっており、不安や嫌な気分から逃れさせてくれる格好の手段ともいえるのではないのでしょうか。

子どもたちが「ゲームで仲良くなった知り合いに会いに行く」というのも、遊び相手に会いに行く程度の感覚であり、悩みを相談する相手として「ネットの人」を選ぶのも、大人が思うほど抵抗を感じていないのかもしれませんが、ただ、大きな危険があるかもしれないと薄々感じながらも「自分は大丈夫」という根拠のない自信から、情報を信用している可能性もあります。

まずは、何気ない会話から親子のコミュニケーションを増やし、子どもの悩みや苦しみに共感し、安心して本音を言える関係づくりを地道に築いていくことが大切ではないのでしょうか。

今後、教育のデジタル化が加速し、学校現場でも学習道具の一つとしてタブレット端末を活用した学習が取り入れられます。そして、オンライン授業と対面による授業を組み合わせた「ハイブリッド化」した授業が増えることは間違いありません。両者をうまく組み合わせ、子どもの潜在能力を引き出し、社会性を一層育てていく取り組みが必須であると考えます。同時に、学校生活における余暇の時間（休み時間・給食など）、授業以外の時間での子ども同士のふれ合いと関わりを大切にしたい教育活動を進めていくことも欠かせません。

結びに、子どもの成長には多くの大人のサポートが必要です。

今後とも保護者、地域の皆様には、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

おおぐろの森小学校の校歌制作者が決定 木造校舎をイメージした校歌を作成依頼

令和3年4月に開校するおおぐろの森小学校の校歌制作者が、作詞は一青窈(ひととよう)さん、作曲は木村弓(きむらゆみ)さん、編曲は中川俊郎(なかがわとしお)さんに決まりました。

これは、市教育委員会職員と市内小・中学校音楽担当教諭から構成される校歌制作委員会で協議を重ねた結果、木造校舎にふさわしく、温かみのある曲作りをされる方々を選び、3名に決定したものです。

なお、学校の校歌を手掛けるのは、一青さん・木村さんとも今回が初めてと伺っております。

現在、制作作業が進められており、校歌の完成は令和3年1月末を予定しています。

◆おおぐろの森小学校校歌制作者◆

- 作詞 一青 窈さん (歌手・作詞家・俳優)
- 作曲 木村 弓さん (歌手・作曲家)
- 編曲 中川 俊郎さん (作曲家・ピアニスト)



小学校全体図

いじめ防止授業

すべての児童生徒が「いじめとは何か」「いじめはなぜ許されないのか」を正しく認識することを目的に、9月～12月の期間において、小学校の5・6年生、中学校の1・2年生を対象に、スクールロイヤーによるいじめ防止授業を実施しました。

いじめ防止授業では、いじめ防止対策推進法の目的やいじめの定義についての正しい理解、いじめにあった時、見た時、知っている時の対処の仕方について学習しました。

授業を受けた児童生徒からは、「いじめの法律があることを初めて知った」「相手の気持ちを考えて行動することが大切だとわかった。」「いじめを見たり、いじめを受けたりしたら、一人で抱え込まず、誰かに相談、報告できるようにしたい。」といった感想が見られました。



「ちばっ子の学び変革推進検証協力校」 拡大校内研修会

11月16日(月)に流山北小学校で、「拡大校内研修会」が行われました。流山北小学校は、千葉県教育委員会より「ちばっ子学び変革推進事業」の指定を受け、令和元年度より2年間、全国学力学習状況調査の結果を踏まえた授業改善の研究に取り組んできました。「自ら考え、意欲的に学ぶ児童の育成」という研究主題のもと、算数の数量関係の学習に焦点を当て、研究を進めてきました。

当日は、6年生の「比例と反比例」の学習を、新型コロナウイルス感染症予防のため体育館で行いました。子どもたちは集中して課題に取り組み、表や数直線を使ってノートに自分の考えを書き、友達と考えを深めることができました。この研究結果は、東葛飾地区の小中学校の教員が参加する研修会でも発表します。



学習ドリルソフト活用研修会

流山市では、今年度の7月に学習ドリルソフトを導入し、市内小中学校のすべての児童生徒が活用可能になりました。現在、各小中学校において、コンピュータ室にあるPC端末を使用して学習を行っています。学習ドリルソフトに取り組む児童生徒は、自分のペースで学習を進めたり、苦手な分野の問題を繰り返し解いたりするなど、意欲的に取り組んでいます。

今回導入した学習ドリルソフトの様々な機能についての理解を深めるために、各校代表の教職員を対象に、ICT企業の方を講師に招き、学習ドリルソフトの活用実践研修会を開催しました。研修で学んだことを、各校での実践に生かしていきます。



流山市GIGAスクール構想

流山市では、ICT機器やデジタルコンテンツの活用による、児童生徒の確かな学力の向上を目指して、市内の公立小中学校に在籍している全ての児童生徒が使用するタブレット端末と、全ての小中学校の校内無線LAN環境を整備します。

令和3年度から学校では、児童生徒がタブレット端末で課題や学習ドリルソフトに取り組んだり、タブレット端末とテレビをつないで画面の内容を見せながら発表を行ったりする学習が始まります。

市教育委員会では、タブレット端末をはじめとしたICT機器を活用した学習を行うための準備として、教職員の研修やICT支援員の導入及び問い合わせのコールセンターの設置など学校への支援体制を整えていく予定です。

※GIGAスクール構想の「GIGA」とは・・・

「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字であり、全ての人々がグローバル(国際舞台)とイノベーション(革新的創造)の扉を開けることのできる学校にしていくことです。



元サッカー日本代表選手 ラモス瑠偉さん 市内中学校に来校!

東京2020オリンピック・パラリンピック教育の取り組みとして、12月4日に常盤松中学校、17日には南部中学校に元サッカー日本代表選手のラモス瑠偉氏が来校し、講演会が実施されました。

講演の前半は、ラモスさんの生い立ちからサッカー日本代表選手として活躍するまでの奮闘した日々を熱く語っていただき、後半は生徒からの質問について、生徒と楽しく関わりながら答えてくださいました。



この講演を通して「夢をたくさん持つ」「夢に向かって努力する」「夢をあきらめない」という力強いメッセージと「困った時は人に相談する」ことの大切さを伝えてくださいました。

生徒からは「トップアスリートの方の考え方を知り、あきらめない事の大切さを学んだ」「努力は絶対に裏切らないという言葉が心に残った」などの感想がありました。

市内小中学校では、今後もオリンピック・パラリンピック教育を推進し、開催に向けて児童生徒の興味関心を高める活動を充実させていきます。

【つながりのある教育の推進】保幼小関連教育

現在、流山市では、幼児期の教育から小学校教育への円滑に移行できるように、「接続期のカリキュラム」の作成を進めています。

11月18日(水)文化会館ホールにて、市内の保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小学校の各校(園)1名ずつの保育士および教員が参加し、保育研究会が行われました。

今年度の保育研究会では、「幼児教育を小学校につなぐ～子どもの伸びしろを広げるカリキュラム整備～」をテーマに、千葉大学教育学部 教授 松嶋洋子先生を講師にお迎えして研修を行いました。松嶋先生からは、保幼小の連携のあり方や接続期のカリキュラムを作成していく際に大切な考え方について、具体的な事例を交えて講話いただきました。その後、小学校区ごとの小グループに分かれ、保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小学校の参加者が各園・学校で行っている取り組みについて、協議を行いました。それぞれの活動の中で意識していることや子どもたちの活動の様子などについて互いに質問したり、答えたりしながら活発に意見交換を行い、とても充実した研修となりました。



保育研究会